

学推だより vol.5

KOKURA
Elementary School
May 8th / FRI / 2015
発行：学推担当

主体的に学習に取り組む態度の育成について①。

アクティブ・ラーニングの「主体的に学ぶ」の視点から。

平成27年度がスタートして一ヶ月が経過しました。授業の進度としては各教科それぞれ2つ目の単元に入る頃ではないでしょうか。そんな中、校長先生から「授業改善における10の確認事項が全学級で適宜実践されている」と嬉しいお言葉をいただいたところです。今月も引き続き、学校全体で統一して実践することをベースに、各学級の実態に応じた様々な授業実践に取り組んでいきましょう。

さて、今号から数回に渡って**アクティブ・ラーニング**の説明の1つである「**課題の発見や解決に向けて主体的に学ぶ**」について取り上げていきたいと思います。文科省の先生方はこの主体的に学習に取り組む態度の育成について「**どの教科も態度の育成は、1時間の授業で達成できるものではない**」とおっしゃっています。日々の授業の中で、どのような活動や体験を積み上げていけばよいのかは、次号以降に紹介していきます。

そこで、算数担当の笠井調査官は、次のようなご指摘をなさっています。

実際に（全国の）授業を見せてもらうと、「問題を写しましょう。見通しを考えましょう。問題を解いたらノートに書きましょう。隣の友達に説明しましょう。発表しましょう。まとめをしましょう…」と**問題解決する授業をしてはいるが、全て教師の指示で授業が流れていることがある。子どもたちは主体的に活動しているのではない。**

研究授業を参観したときも、導入では「おもしろそうな問題だな、解いてみたいな」と**主体的に子どもたちが取り組み始めたが**、「答えが出た。当たっていた」といった場面以降は、「友達の考えを聞きましょう。どの解き方がよいか考えましょう。また似ている考えを見つけましょう」と、**教師の指示で授業が進んでいく。**



私はこの記事を読みながら、「あっ、自分の授業の姿だ…」と、うちあたいて苦しい思いをしました。「**主体的に学ぶ**」と言葉にしてみると「なるほど」と思ってしまうのですが、それが授業の中でどのような子どもの姿を指しているのかを日々の授業の中で本気で探っていないと、これまでの授業の踏襲に過ぎないと実感させられた調査官の鋭いご指摘でした。

次号から、「子どもたちが主体的に学ぶ」についての資料と実践等を算数を中心にご紹介させていただきます。